

# 郷土への興味・関心を高め、 歴史の学び方を身に付けさせる学習指導の工夫 —「浦添城跡」の教材化と体験活動を通して—

浦添市立仲西中学校 平 良 裕 樹

## 【要約】

本研究は、身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への興味・関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせることを目指し、学習指導の工夫を試みたものである。

授業実践においては、現地学習などの体験的な学習を通し、生徒の学習意欲を引き出しながら、郷土への興味・関心を高め、また作業的・問題解決的な学習を展開することで、生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫し、歴史の学び方を身に付けさせることができた。

### キーワード

地域素材の教材化 学習意欲 作業的・体験的な学習  
歴史の学び方 問題解決的な学習

## I テーマ設定の理由

国際化・情報化・科学技術の進展など、社会の変化が目まぐるしい現状にあって、文部科学省は、「中央教育審議会の答申」（1996年7月）「21世紀を展望した我が国の教育の在り方」を受け、学習指導要領を改訂した。平成14年度から全面実施されているこの学習指導要領では「〔生きる力〕を育む」を目指し、「体験的な学習や問題解決的な学習」、「生徒の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促される工夫をすること」が重視されている。

社会科の学習指導においても、社会の変化に適切に対応できる資質や能力を育成するためには、「自ら学び、自ら考える力を育成する」の一環として、学び方を学ぶ学習を重視した改訂を行っている。

中学校社会科においては、指導内容の精選の中、新たに「(1)歴史の流れと地域の歴史」の内容が設けられた。この内容は「ア 我が国の歴史について、関心ある主題を設定しまとめる作業的な活動を通して、時代の移り変わりに気付かせるとともに、歴史を学ぶ意欲を高める。」、「イ 身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、歴史の学び方を身に付けさせる。」ことをねらいとしている。

ところで、社会科に対して生徒はどう思っている

かを知るために本校第1学年の生徒にアンケートを実施した(H16.5/12)。アンケートの結果から、社会科に対する印象として暗記学習だと捉えている生徒が約半数いた。また、「社会科は好きですか」という質問に対して「好き」「まあまあ好き」と答えた生徒が6割弱おり、社会科は生徒にとって、興味・関心がある教科である。さらに、「郷土（沖縄・浦添）の歴史に興味・関心がありますか。」という質問に対しては「ない」と答えた生徒が約6割と半数以上おり、郷土の歴史に対する関心が低い。

日々の授業実践からも、生徒たちは学習活動において受動的に授業を受けている生徒も少なくない。

そこで、社会科教育の実践課題の一つである「郷土の歴史に興味・関心をもたせ、郷土への誇りや郷土愛を育てる」「自ら学び、学び方を身に付けさせる」ために、歴史の学習指導の充実を図る。

身近な地域素材を教材化し、生徒の主体的な活動による問題解決的な学習を通し、自ら課題をもち、様々な資料の活用・聞き取り調査を行うことで、郷土への興味・関心を高めるとともに、歴史の学習に対し主体的な学び方が身に付くと考え、本テーマを設定した。

## II 目指す生徒像

郷土愛をもち、歴史の学び方を身に付けた生徒。

## III 研究の目標

歴史の学び方を身に付けた生徒を育むために、身近な地域素材、「浦添城跡」の教材化と、体験的な学習や作業的・問題解決的な学習指導の工夫について実践的な研究を行う。

## IV 研究の仮説

### 1 基本仮説

郷土の歴史学習において、身近な地域素材、「浦添城跡」を教材化し、体験的な学習や問題解決的な学習を行えば、生徒の興味・関心が高まり主体的に

課題を追究し、歴史の学び方が身につくであろう。

### 2 作業仮説

(1) 外国人との交流、地域人材の講話や現地学習などの体験的な学習を行えば、郷土への興味・関心が高まるであろう。

(2) 追究過程において、インターネットや書籍などの、情報手段の活用を図れば、必要な情報を収集選択し、レポートや新聞などに工夫してまとめることができるであろう。

(3) 課題について視点を明確にした相互交流の場を工夫することにより、生徒一人一人の考え方が広がり、課題に対する理解が深まるであろう。

## V 研究構想

《 目指す生徒像 》  
郷土愛をもち、歴史の学び方を身に付けた生徒。

《 研究テーマ 》  
郷土への興味・関心を高め、歴史の学び方を身につける学習指導の工夫  
—「浦添城跡」の教材化と体験活動を通して—

《 研究目標 》  
歴史の学び方を身に付けた生徒を育むために、身近な地域素材、「浦添城跡」の教材化と、体験的な学習や作業的・問題解決的な学習指導の工夫について実践的な研究を行う。

《 研究仮説 》  
〈 基本仮説 〉  
郷土の歴史学習において、身近な地域素材、「浦添城跡」を教材化し、体験的な学習や問題解決的な学習を行えば、生徒の興味・関心が高まり主体的に課題を追究し、歴史の学び方が身につくであろう。

〈 作業仮説 (1) 〉  
外国人との交流、地域人材の講話や現地学習などの体験的な学習を行えば、郷土への興味・関心が高まるであろう。

〈 作業仮説 (2) 〉  
追究過程において、インターネットや書籍などの、情報手段の活用を図れば、必要な情報を収集・選択し、レポートや新聞などに工夫してまとめることがで

〈 作業仮説 (3) 〉  
課題について視点を明確にした相互交流の場を工夫することにより、生徒一人ひとりの考え方が広がり、課題に対する理解が深まるであろう。

きるであろう。

### 《 研究 内容 》

- |              |            |
|--------------|------------|
| 1 学習意欲を高める工夫 | 2 地域素材の教材化 |
| 3 歴史の学び方の指導法 | 4 評価       |

### 《 授業 展開 例 》

### 《 研究の成果と今後の課題 》

## VI 研究内容

### 1 学習意欲を高める工夫

学習意欲とは端的に言えば、学習しようとする欲求なり意志、感情を総称する概念であるといえる。また、学習意欲は、それ自体で完結している欲求なり意志、感情ではなく、いうなれば主体の形成している興味・関心・態度の反映であると考えることが大切である。

学習意欲を喚起する方法として、外発的動機づけと内発的動機づけがある。

#### (1) 動機づけ

##### ① 外発的動機づけ

学習意欲の源泉を学習者本人の“外”に求めることによって学習への意欲化を図ろうとする(＝外発的意欲)。

##### ② 内発的動機づけ

学習者本人が“内(うち)”から、いうなれば自分から進んで学習への意欲を抱くように動機づけがなされる(＝内発的意欲)。

※ 生徒が意欲的に学習に取り組むには動機づけによって大きく左右される。学習意欲を高めることは、生徒の内発的動機づけを高めることと関係があると思われる。そこで授業の中で内発的動機づけをひきおこす教材・指導法を用いることで、生徒の知的好奇心を刺激し、探求心が生まれ、学習課題に対して主体的に学習に取り組んでいけると考えた。

### (2) 本研究における学習意欲の高め方

本研究では学習意欲(特に内発的動機づけ)を高めるために第2時～第5時において下記のことを実践した。

#### ① 外国人との交流

中国人やカナダ人を招いて、自国(郷土)紹介・自国(郷土)の誇りや自慢など質疑応答を交えながら、自分が住んでいる地域について考えさせる。

地域を見つめ直し、地域について考えさせることで「詳しく調べてみよう」・「もっと地域のことを勉強しよう」などの探究心を引き出す。

#### ② 地域の英雄(浦添王子)のVTRを見る

子供の頃から浦添の英雄として伝えられる浦添グスクの王、「英祖王」の幼少時代のエピソードを地域の小中高校生を集めた演劇ワークショップ「ゆいゆいキッズ」が演じた「太陽の王子」のVTRを見せる。

浦添はグスク時代(12世紀～15世紀)に琉球の中心であり、浦添グスクを治めていたのが「英祖王」であったことを知り、浦添という地域の重要性、英祖王の偉大さを教える。

「地域の英雄」のVTRを見ることで、浦添には偉大な英雄がいたことを知り、郷土に対する誇りをもたせ、郷土への興味・関心を引き起こす。

#### ③ 浦添城跡めぐり(現地学習)

「うらおそい歴史ガイド」の人材を活用し、浦添城跡の説明、浦添・琉球王国の歴史の概要

について質疑を交えながら理解させる。

体験（現地）学習を行なうことで当時の様子のイメージをふくらませ、知的好奇心を刺激し、追究意欲へとつなげる。

※ 以上3点を本研究における学習意欲を高める工夫として導入段階で扱い、生徒の内面的な部分に訴えながら、学習活動を展開することにした。

## 2 地域素材の教材化

### (1) 社会科における地域学習の有効性

生徒の主体的学習を促す授業を展開するには魅力ある教材を作ることが大切である。この魅力ある教材とは生徒に知的好奇心がわき、生徒が学習課題を個性化・主体化し、追究活動できる内容の教材だと考える。

そこで、地域学習（地域素材の教材化）を通して、地域への興味・関心を高めながら、生徒の主体的な学習を促すことにした。

社会科における地域学習の（地域素材の教材化）有効性は次のような点から論じられている。（「新訂社会科教育指導用語辞典」 教育出版）

- ① 生徒にとって身近な学習対象であるということは、それらに親しみをもって接することができるというだけではなく、自分自身の生活とのかかわりで考えたり調べたりするなど、具体的思考が期待できる。
- ② 地域教材は見学・観察が可能で、未経験なものを見学・観察させるだけでなく、日常身近に見ているものを新しい視点から見直させることで新しい発見を得ることが可能である。
- ③ 地域に教材を求めた場合、複数の答えが認められ、価値観の違いによる立場の選択が生徒に要求される。また、直接自分の生活に関係してくるため、理想的な意見ではなく、より具体的なレベルでの思考・判断が求められ、認識の具体化が可能となる。
- ④ 地域の問題を追究していく場合に、生徒自身の手で資料を作成し、問題を追究していくことが可能である。
- ⑤ 身近な社会的事象から我が国や世界の社会

的事象について考えることができ、帰納的な思考力の育成が可能となる。また、地域学習で学んだ社会的見方・考え方を教科書教材で使用することで、演繹的な思考力の育成が可能となる。

⑥ 地域学習は、地域社会の一員としての自覚や誇り、地域に対する愛情をはぐくむ上で重要であり、ひいては、地域を調べ、学ぶ活動の推進力となる。

以上のことから地域学習（地域素材の教材化）は主体的学習に有効性があると考えられる。

## 3 歴史の学び方の指導法

### (1) 「学び方を学ぶ学習」

生涯にわたって学び続ける能力や態度の基礎を培うため、学校教育において「学び方を学ぶ学習」が重視されている。社会科教育における「学び方を学ぶ学習」について以下のように捉える。

「学び方を学ぶ」は、何を学ぶことなのだろうか。大きく二つの側面から考えられる。まず一つは、教科書や地図帳・資料集・パソコン等を活用し情報収集する技能である。このほか、表現する技能・話し合う技能などを含め「How To的側面」である。

二つ目は多面的・多角的に思考・判断するといった問題を解決していく筋道や思考の方法で「プロセス的側面」と考えられる。

「学び方」のほとんどが、学習の過程で培われるものであり、また、生徒自らが作業・体験しながら学んで初めて効率的に育成できるものである。（山口耕作 「学び方を学ぶ社会科学習の工夫と改善」 佐賀県教育センター）

生徒が主体的に学習するために必要な力として、「学んだ力」（知識・理解・技術）、「学ぶ力」（思考判断力・表現力・情報活用能力など）、「学ぼうとする力」（関心・意欲・態度）があり、これら三つの力が相互に関連し補強し合うことで意欲的に学習に取り組むと考えられている。本研究

ではこれら三つの力を育みながら、学習過程 (How To 的側面とプロセス的側面) である「学

ぶ力」に注目し、社会科 (歴史) 学習における「学び方」を身に付けさせることにした。

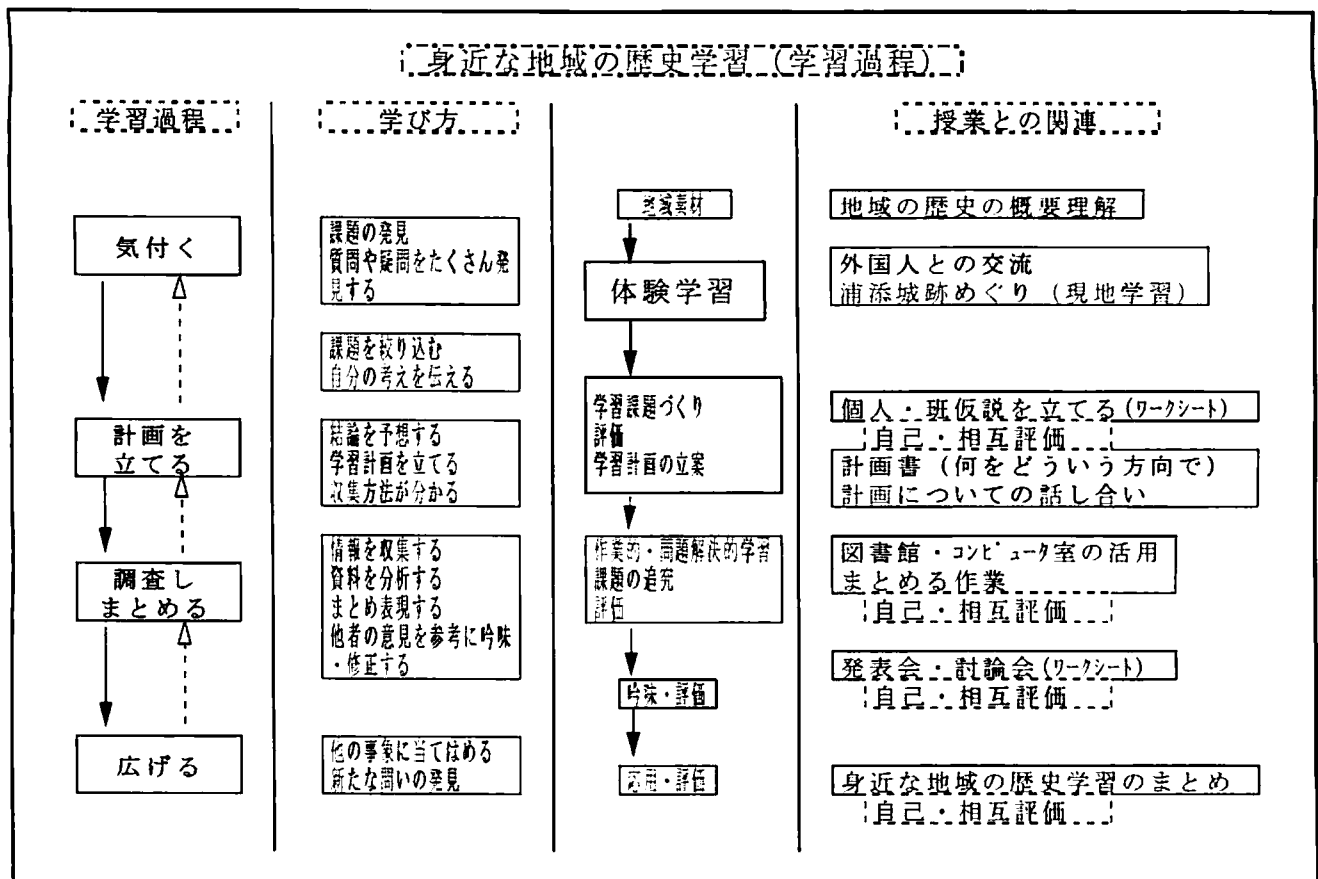


図1 学び方を学ぶプロセス

(2) 歴史の学び方を身に付ける工夫

歴史の学び方や指導法について

① 学び方を備えた生徒像

ア 学習課題を明確にとらえ、その解決のための学習計画を立案して追究活動ができる生徒。

イ 追究したことを筋道立てて表現でき、学習を振り返ることで自己を高め、次の学習へ活用できる生徒。

② 歴史の学び方を身に付ける手だて

本研究では歴史の学び方を身に付けさせる手だてとして下記のことを行うことにした。

ア 外国人との交流・地域の英雄のVTRの視聴・現地学習を通して課題をつくらせる。

イ 学習課題解決の予想(仮説)に基づいた、学習計画表を作成させる。

ウ 調べて、まとめる活動を通して資料の収集・選択・分析・比較・考察を行ない多様なスタイルで工夫しまとめさせる。

エ 発表会や討論会の場を設定し、他から学びとらせる。

オ 調べ方・表現の仕方(学び方)について学習を振り返らせる。(自己・相互評価を行なう)

※ 問題解決的な学習や作業・体験的な学習を取り入れ、上記のア～オの手だてを学習過程の中で行なうことにより、歴史学習の調べ方や学び方、ものの見方や考え方を学び身に付けることができると考える。

## 4 評価

### (1) 歴史的分野の観点

観 点	教 科	歴史的分野の観点の趣旨
社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。	歴史的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って、我が国の文化と伝統について考え国民としての自覚をもとうとする。
社会的な思考・ 判断	社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断する。	歴史的事象から課題を見だし、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを多角的・多面的に考察し、公正に判断する。
資料活用の 技能・表現	平素から各種の資料に親しみ、社会的事象に関する有用な情報を適切に選択して活用するとともに追究し考察した過程や結果を適切に表現する。平素から各種の資料に親しみ、社会的事象に関する有用な情報を適切に選択して活用するとともに追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	年表や歴史地図、映像など歴史に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表や討論などを行なったりする。
社会的事象につ いての知識・理 解	社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。	我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを我が国の歴史と関連のある世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。

### (2) 「歴史の流れと地域の歴史」の評価規準と具体例

観 点	観点別評価規準	観点別評価規準の具体例
①社会的事象への 関心・意欲・態度	我が国の歴史の流れと地域の歴史に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	ア 我が国の歴史の流れに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 イ 身近な地域の歴史に対する関心を高め、意欲的に調べようとしている。
②社会的な思考・ 判断	我が国の歴史の流れと地域の歴史について、歴史的事象から課題を見だし、時代の移り変わりや地域の具体的な事柄と我が国の歴史とのかかわりを多面的・多角的に考察している。	ア 我が国の歴史について、関心ある主題を設定し、時代の大きな移り変わりを考察している。 イ 身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域の具体的な事柄と我が国の歴史とのかかわりを考察している。
③資料活用の技能・ 表現	我が国の歴史の流れと地域の歴史に関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究した過程や結果をまとめたり、発表や討論したりしている。	ア 関心ある主題に関する年表や歴史地図、絵画、文献、映像などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表したりしている。 イ 身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域の歴史に関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表や討論したりしている。
④社会的事象につ いての知識・理解	我が国の歴史の流れについて時代の移り変わりに気づき、また、身近な地域の歴史とのかかわりの中で我が国の歴史を理解している。	ア 時代の大きな移り変わりに気付いている。 イ 身近な地域の具体的な事柄とかかわらせて、我が国の歴史を理解している。

## Ⅶ 授業実践

# 社会科学習指導案

第1学年7組

男子18名・女子21名、計39名

### 1 単元名

「地域の歴史」

### 2 単元目標

#### (1) 単元目標

身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、歴史の学び方を身に付けさせる。

### 3 単元について

#### (1) 教材観

「身近な地域」として、地域の英雄として伝えられている「英祖王」の居城、「浦添城跡」を教材化することで、地域への興味・関心を高め、身近な地域を調べる活動を通して、歴史の学び方を身に付けさせることをねっている。

首里城正殿は「百浦添」（ももうらそえ）と呼ばれており、百の（たくさんの）浦々をおそう（支配する）琉球王国の中心という意味がある。「うらおそい」は浦添の古名でもあり、このことから浦添が首里以前の王都であり、その王宮が浦添城だと考えられている。

12世紀末に、「舜天王統」・「英祖王統」・「察度王統」が浦添を王都に琉球あるいは中山一帯を220年間支配していたと伝えられている。

14世紀後半に、「世の主」（按司・地方の支配者）たちは中国国王により、それぞれ北山王、中山王、南山王という王の位を与えられ、三山の中でも中山（浦添）は外国（中国や東南アジアなど）との貿易も盛んにおこない沖縄の中心として栄えていた。

1406年、外国との貿易で力をつけた佐敷の「尚巴志」は、中山王（浦添の王）を滅ぼし、中心を首里に移した。その後、北山、南山も滅ぼし、1429年琉球を統一し「琉球王国」を建国した。

その後、第二尚氏王統、尚真王の時代に、中央集権の王国が形成・確立され、首里王府は揺るがない国となった。

1609年、薩摩藩島津氏の侵入により浦添城は焼き討ちにされ、また首里城も攻め落とされた。当時の琉球王国の王、尚寧は浦添按司家出身であり7代目の国王として首里に迎えられ王位についていた。琉球が薩摩に敗れた結果、尚寧王は2年間、重臣たちとともに薩摩の捕虜となった。その間、家康・秀忠に会った後、琉球へ帰された。尚寧王は歴代国王の中で大きな事件に巻き込まれた悲劇の国王として知られている。

その後、1868年第2尚氏王統尚泰王の時代に日本に新政府が誕生し、1872年「琉球王国」から「琉球藩」へ、1879年「沖縄県」となり400年あまり続いた琉球王国時代に幕を閉じた。

身近な地域を調べることで、新しい発見や疑問が解け、地域のことをいっそう理解することができる。また、地域の一員としての自覚や誇り、地域に対する愛情を育み、郷土への興味・関心を高めることができる。さらに、作業的・問題解決的な学習を展開することで、生徒の主体的な学習活動を促し、学び方を身に付けることができる。など3点から有効であり、本教材を扱うことにした。

## (2) 生徒観

社会科や授業に対して生徒はどう考えているかを知るために事前にアンケートを実施(H16 5/12)した。そのアンケートの結果から、社会科が好きという生徒が約64%いるが、郷土の歴史に対して興味・関心があると答えた生徒は約41.6%であった。社会科に対する関心は高いにもかかわらず、郷土の歴史に対する興味・関心は低いという結果がでた。また、社会科という教科に対する印象として、「社会に出て役立つ」、多くの国のことを知ることができて「楽しい」、と良い印象を持つ生徒も見られるが、年代や国名を覚えたりする「暗記学習」、政治や経済などがあり「難しそう」と考えている生徒もいる。さらに、どのような授業スタイル(形態)が好きかという問いに対して、一斉授業19%、個人・グループでの調べ学習53%、校外学習28%で教師主導型で受動的な学習よりも課題や問いに対して主体的に調べる学習や体験的な学習を好んでいる様である。

## (3) 指導観

中学校社会科学習指導要領の基本方針の一つに、「学び方を学ぶ学習の充実」が掲げられている。

歴史的分野の学び方については、外国人との交流を通して地域を見つめ直させ、地域の英雄のVTRを見せながら地域の歴史の概要を理解させる。その後、「うらおそいガイド」の人達と一緒に現地学習(浦添城跡めぐり)を行ない、生徒がもつ疑問や興味・関心を通して今自分が解決したい課題を発見し、どのように調べるかを考えさせる。そして課題の追究過程において、インターネットや書籍など多くの情報手段の活用を図り、必要な情報の収集、選択を行ない、調べた結果を分析・比較・考察し、分かりやすくまとめ、他の人へ知らせる表現の仕方を学ばせたい。また「発表会」や「討論会」において、生徒同士の話し合い活動を通して、課題に対し多面的・多角的な思考・判断ができるような学び方もあわせて身に付けさせたい。

本単元を通して、歴史に対する学び方についての基礎的な方法や手順を知らせ、課題の解決にいたる学習のプロセスを体験させるとともに、郷土への興味・関心を引き出し郷土愛を育てながら、基礎的な歴史の学び方を身に付けさせたい。



【身近な地域の歴史の評価基準表】

4 学習計画と評価

累計	主な学習内容	学習目標	観点	具体的評価目標	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
1 2 3 4 5	1.沖縄・浦添のイメージマップ作成 2.外国人との交流 3.浦添・琉球王国の歴史 4.5.浦添城跡めぐり(現地学習)	1.沖縄・浦添についての既存知識を知る。 2.郷土自慢(の誇り)について話し合い郷土に対する関心を高める。 3.郷土の歴史についての概要を把握する。 4.5.浦添城跡めぐり(現地学習)を通して身近な地域に関心をもち、地域の歴史に対する関心を高める。	①イ	◎外国人との交流・身近な地域についての講話や現地学習を通して、地域の歴史に対する興味や関心が高まる。	○外国人との交流や講話・現地学習を目標を持ち、楽しく行えた。 ○外国人との交流・講話や現地学習を目標を持ち、楽しく行えた。	○外国人との交流・講話や現地学習を目標を持ち、楽しく行えた。	○外国人との交流・講話や現地学習を楽しめない。
6	6.学習課題づくり	6.統一課題について個人・班で仮説を立て、発表し合うことで、課題を多面的・多角的に考察し、1つの仮説に絞る。	①イ ②イ	◎郷土の歴史に興味・関心を持ち、主体的な仮説が設定できる。 ◎課題にたいして多面的・多角的な考察ができる。	○学習課題について主体的な仮説を立てようとしている。 ○班での話し合い活動から、課題に対して多面的・多角的な考察ができる。	○学習課題について仮説を立てようとしている。 ○話し合い活動に積極的に参加している。	○学習課題に関心を示さず他者の意見に促され仮説を考えている。 ○話し合い活動に参加しない。
7 8 9 10 11	7.「調べ方」・「まとめ方」について 8.9.調べ学習①・② 10.11.まとめ①・②	7.「調べ方」・「まとめ方」についての方法や手順を知り、学習計画を立てる。 8.9.課題を解決するために、必要な情報を収集・選択する。 10.11.追究し考察した結果を班で新聞やレポート、年表などにまとめる。	④イ ②イ ③イ ③イ ③イ	◎「調べ方」・「まとめ方」についての方法や手順が分かり、学習計画を立てることができる。 ◎図書資料から課題解決のために必要な資料を収集・選択できる。 ◎インターネットから課題解決のために必要な資料を収集・選択できる。 ◎課題に対して調べた結果や内容を新聞やレポート、年表などにまとめることができる。	○「調べ方」・「まとめ方」についての方法や手順が分かり、調べて・まとめる活動に対して工夫した学習計画が立案できる。 ○図書資料から必要な資料を収集・選択できる。 ○インターネットから必要な資料を収集・選択できる。 ○新聞やレポートなどに文章やグラフを使い、工夫してまとめることができる。	○「調べ方」・「まとめ方」についての方法や手順が分かり、学習計画を立てることができる。 ○図書資料から資料を収集・選択できる。 ○インターネットから資料を収集・選択できる。 ○新聞やレポートなどに文章でまとめることができる。	○「調べ方」・「まとめ方」についての方法や手順が理解できず、学習計画が立てられない。 ○図書資料から資料収集ができない。 ○インターネットから資料収集できない。 ○新聞やレポートなどにまとめることができない。
12 13 14	12.「発表会」・「討論会」について 13.発表会 14.討論会	12.「発表会」・「討論会」についての方法や手順を知り、会へ向けての準備をする。 13.追究し考察した過程や結果をまとめ、班で役割分担をし発表を行なう。 14.学習課題に対し多面的・多角的に考察し、主体的に判断する力をつける。	④イ ②イ ③イ ③イ ②イ	◎「発表会」・「討論会」についての方法や手順が分かり、会へ向けての準備ができる。 ◎班で役割分担をしまとめた結果を発表することができる。 ◎討論会では学習課題に対して多角的・多面的に考察し、意欲的に意見が言い合える。	○「発表会」・「討論会」についての方法や手順が分かり、適材適所を考え役割分担をするなど、会へ向けての準備ができる。 ○班内で役割分担を行ない、他のグループの人に分かりやすい表現方法で発表することができる。 ○学習課題に対し多角的・多面的に考察し、自分の考えを持ち、積極的に討論に参加している。	○「発表会」・「討論会」についての方法や手順が分かり、役割分担を行ない、会へ向けての準備ができる。 ○一部の人がだけで班でまとめた内容を発表している。 ○課題に対し自分の考えを持ち討論に参加している。	○「発表会」・「討論会」についての方法や手順が理解できず、会へ向けての準備もできない。 ○班で資料をまとめているが、原稿の様態みになったり発表することができない。 ○あまり発言もなく消極的に討論に参加している。
15	15.授業のまとめ	15.身近な地域の歴史学習をまとめる。	①イ ④イ	◎身近な地域の歴史学習を通して、郷土への興味・関心を高めることができる。 ◎身近な地域の歴史学習を通して、歴史の学び方を身に付けることができる。	○身近な地域の歴史学習を通して、郷土への興味・関心を高め、歴史の学び方を身に付けることができる。 さらに、自己を振り返ることで、次の学習につなげることができる。	○身近な地域の歴史学習を通して、郷土への興味・関心を高め、歴史の学び方を身に付けることができる。	○身近な地域の歴史学習を通して、郷土への興味・関心を高められず、歴史の学び方についても身に付けることができない。

## VIII 研究の考察

### 1 作業仮説の検証

#### (1) 作業仮説1の検証

外国人との交流，地域人材の講話や現地学習などの体験的な学習を行なえば，興味・関心が高まるであろう。

興味・関心が高まった生徒とは『なぜ』『どうして』という知的好奇心を持ち，地域の歴史について「もっと知りたい」「詳しく調べたい」と追究していく生徒」と捉え，授業において生徒の意欲を喚起することを考えた。そこで，郷土への興味・関心を高めながら，学習意欲を引き出すために，第2時～第5時までの授業を行なった。

期	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
第1時 授業の日程	<p>学習目標 沖縄・浦添についての既存知識を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日程を確認する。</li> </ul> <p>浦添・沖縄についてイメージマップ作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イメージマップを記入する。</li> <li>浦添・沖縄からイメージする事柄をできるだけ多く書く。</li> </ul> <p>次時の予告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人への質問用紙（ワークシート）を配る。→宿題</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートをノートに貼る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域の歴史学習について日程を確認する。</li> <li>授業の流れを簡単に説明する。</li> <li>プリント配布（イメージマップ）</li> <li>浦添・沖縄に関連することをできるだけ多く出させるように工夫する。</li> <li>ワークシート配布。</li> <li>浦添・沖縄についての紹介・郷土の誇り（郷土自慢）を発表することを伝える。</li> </ul>	<p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>浦添・沖縄から連想することをできるだけ多く出せたか。</li> </ul>
第2時 外国人との交流（自国自慢・郷土の誇り）	<p>学習目標 郷土の誇り（自慢）について話し合い，郷土に対する関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2名の外国人の話を聞く。</li> <li>ワークシートに記入する。 →わかったこと，質問したいことなど</li> <li>外国人への質問タイム</li> <li>2～3人程度，浦添・沖縄についての紹介，郷土自慢（郷土の誇り）を発表する。</li> <li>質疑応答タイム</li> <li>今日の授業をワークシートにまとめる。</li> <li>今日の授業の感想を発表する。（2～3人談）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2名の外国人を簡単に紹介する。</li> <li>外国人に話をしてもらおう。 →中国・カナダ（住んでいる地域について） 自国（郷土）紹介・郷土の誇り・郷土自慢など</li> <li>質疑が多くできるように工夫する。 →個人的・国（郷土）・歴史的なことについての質問をバランスよくできるように配慮する。</li> <li>2～3人程度，浦添・沖縄の紹介，郷土自慢（郷土の誇り）について発表させる。 →大きな声で，わかりやすく質問するように指示する。</li> <li>外国人からも生徒へ質問してもらおう。</li> <li>今日の授業のまとめをする。</li> <li>今日の授業の感想を発表させる。</li> </ul>	<p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人との交流を通して，郷土のことを改めて見つめ直し，関心を高めることができたか。</li> </ul>
第3	<p>学習目標 郷土の歴史についての概要を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>VTR「太陽の王子」を鑑賞する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英祖王の活躍がわかる感動的な場面を見せる。</li> </ul>	

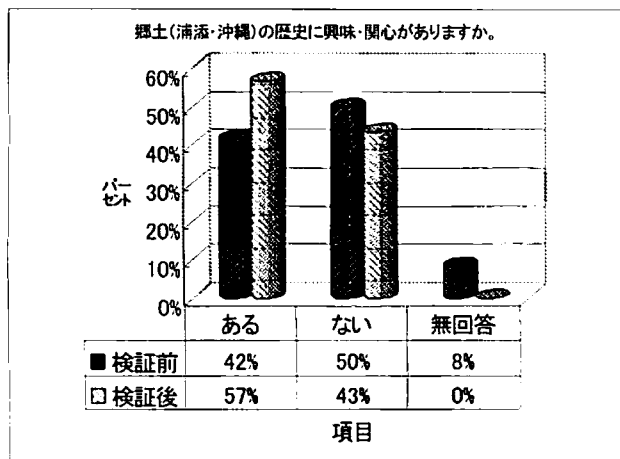
<p>時 浦添 琉球王国の歴史</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑応答をしながら浦添の三王統時代についての歴史の概要を知る。</li> <li>・質疑応答をしながら琉球王国時代の歴史の概要を知る。</li> <li>・教科書（副読本）の年表を参考にしながらワークシートを解く。</li> <li>・発表タイム</li> <li>・今日の授業のまとめ</li> <li>・ワークシートをノートに貼る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浦添三王統時代の歴史の概要を発問をしながら説明する。</li> <li>・琉球王国時代の歴史の概要を発問をしながら説明する。</li> <li>・ワークシート配布。</li> <li>・沖縄、日本の歴史年表をつくらせる。その際、副読本を参考にする。</li> <li>・歴史年表の解答をする。</li> <li>・今日の授業をまとめる。</li> <li>・次時の授業の説明と現地学習でのワークシートを配布し、ノートに貼らせる。</li> </ul>	<p>知識・理解 郷土の歴史の概要が理解できたか。</p>
-----------------------------	---	---	-----------------------------------

<p>第4・5時：浦添城跡めぐり（現地学習）</p>	<p>学習目標 浦添城跡めぐり（現地学習）を通して、身近な地域に関心をもち、地域の歴史に対する興味を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浦添の三王統時代の歴史の概要を知る。</li> <li>・うらおそいガイドと浦添城跡をめぐりながら説明を聞く。 興味・関心や疑問に思ったこと、わかったことをワークシートにまとめる。</li> <li>・琉球王国時代の歴史の概要を知る。</li> <li>・質問タイム 説明を聞いてわからなかったところ・疑問に思ったことを質問する。</li> <li>・個人課題を何点かつくる。</li> <li>・集合し、今日の授業をワークシートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うらおそいガイドの紹介。 （川根幸子さん、仲間孝蔵・マサ子さん）</li> <li>・浦添の三王統時代の歴史の概要を人物史を中心に話してもらう。</li> <li>・3班に分かれ現地学習を行う。その際、ワークシートの活用を確認する。</li> <li>・琉球王国時代の歴史の概要を人物史を中心に話してもらう。</li> <li>・手を挙げ、大きな声で質問するように指示する。</li> <li>・浦添城跡をめぐりながら課題をつくらせる。</li> <li>・時間通りに集合場所に集まるよう指示し、今日の授業をまとめる。</li> </ul>	<p>関心・意欲・態度 浦添城跡めぐり（現地学習）を通して、身近な地域に関心をもち、郷土の歴史に対して興味を高めることができたか。</p>
----------------------------	---	--	---

（結果）

① アンケートから

グラフ1 郷土（浦添・沖縄）の歴史に興味・関心がありますか。



検証前後のアンケートより、「郷土（浦添・沖縄）の歴史に興味・関心がありますか。」という問いに対して、「ある」と答えた生徒が 42%から 57%へと約 16%増加が見られた。

また、「ある」と答えた生徒たちの感想には、

- A君 浦添の歴史を知ったから。
- Bさん 沖縄の歴史や文化について調べてみたい。
- C君 浦添が好きだから。
- Dさん 沖縄の王様のことがもっと知りたい。
- E君 浦添の歴史に興味がある。
- Fさん 偉人とか首里城の歴史に興味がある。

など、郷土に対する意識が高まり、興味・関心を抱いてきたことが見受けられる。

### 外国人との交流



浦添城跡めぐりの様子

### 「発見！沖縄（琉球王国）の歴史！！」

発見！沖縄（琉球王国）の歴史！！

( )年( )期( )巻 名前( )

1. 琉球王国の話を聞いて面白かったこと。  
王様のおくさんの本をあげんで「うむいび」という。

2. 琉球王国の話を聞いて興味・関心を持ったこと。  
琉球王国が琉球王国じゃなくもたという時代(時代)に関心を持った。

3. 琉球王国の話を聞いて疑問に思ったことを質問したいこと。  
何人ぐらいの王様がいますか？

4. 琉球王国について調べたいこと(学習課題)  
① もっとよくこれについて調べる  
② 沖縄を世界いせんにとくくされているのを調べる

【琉球王国の歴史についての疑問を聞いての感想を書こう！】  
琉球王国は昔からの歴史があって中国の本みたいのものってる物か、伊弉册みたいなものがあって、それを印に写した。

### ② 現地学習のワークシートから

#### 「発見！浦添（城跡）の歴史！！」

発見！浦添（城跡）の歴史！！

( )年( )期( )巻 名前( )

1. 浦添の古く時代の話を聞いて面白かったこと。  
琉天、天までには伊弉册もあげて、察度王統が中国の歴史に残っている。

2. 浦添城跡をめぐって興味・関心を持ったことや疑問に思ったこと。  
この下には、お城のい壁がある。戦争ではかきさめた。

3. 浦添城跡をめぐって疑問に思ったことを質問したいこと。  
なんでここに王様が建てたのか？  
昔はどんな所だったのか？

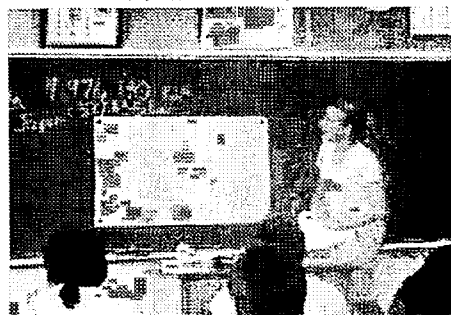
4. 浦添城跡や城跡の歴史で調べたいこと(学習課題)  
① 何で作られたか  
② 王はどのようにしてまくな、たか。  
③ 何人で作ったか。

【浦添城跡をめぐっての感想を書こう！】  
昔の王は、お城の歴史にわかっているか？  
すこいって思った。

### (考察)

第2時・外国人との交流を行ない、地域を見つめ直し、地域について考えさせた。交流を通して、生徒たちは浦添や沖縄では「何が誇れるのか」また「何が自慢できるか」を考えながら、「もっと地域のことを勉強しよう」・「地域について調べてみよう」などの探究心を引き出すことができた。

### 外国人との交流



第3時・浦添・琉球王国の歴史（地域の英雄のVTRの活用も含む）の授業では地域の歴史の概要を理解させ、地域の英雄の偉大さ、浦添という

地域の重要性に気づかせた。その結果、生徒たちの感想からも「英祖ってすごい王様だったんだ!」・「浦添が沖縄の中心でその王様が英祖王だったんだ!」など、郷土の偉大な英雄のことを知り、郷土に対する誇りをもち、郷土への興味・関心が高まってきたことが分かる。第4～5時・浦添城跡めぐり（現地学習）においては、うらそいガイドを活用し、当時のイメージをふくらませた。前時までの学習で探究心や郷土への興味・関心を引き出しながら現地学習を行なったことは生徒たちの興味・関心を高めることにかなり効果があったと思われる。さらに郷土の歴史の専門家がガイドとして一緒に学習したことは、地域のことを詳


しく知ることができ、生徒たちは驚きや疑問、新しい発見をし、郷土への興味・関心を高める上で相乗効果をもたらしたと考えられる。浦添城跡めぐりを通して、生徒たちのワークシートからも「昔の王が、まだ、ここのお墓にねむっているからすごいとおもった。」・「もっとようどれについて調べる」・「沖縄で世界いさんにとよろくされているのを調べる」など郷土への興味・関心の高まりが見られる。



これらの授業を通して、生徒たちの知的好奇心を刺激し、探究心を生み、郷土への興味・関心を高めることができた。

## (2) 作業仮説2の検証

追究過程においてインターネットや書籍など情報手段の活用を図れば、情報を収集・選択し、レポートや新聞などに工夫してまとめるができるであろう。

今回は歴史学習の導入段階であることから「調べ方」・「まとめ方」についての基本的な方法や手順を説明し、班編成を行ない学習計画を立てさせ、情報の収集や選択、まとめる活動を実践した。追究過程においては、インターネットや書籍など情報手段の活用に力点を置き、聞き取り調査や地域の施設・設備の利用は必要に応じて、各班で独自に計画を入れるようさせた。

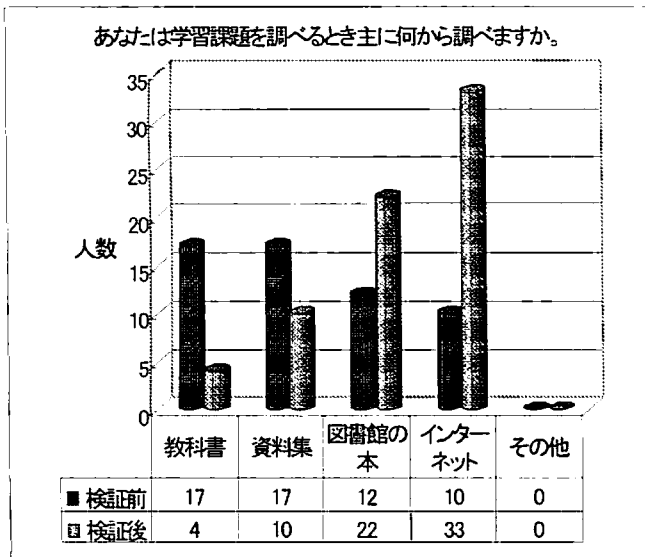
時間	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
第6時 学習課題づくり	<p>学習目標 統一課題について個人で仮説を立て、班で発表し合うことで課題を多面的・多角的に考察し、1つの仮説に絞る。</p> <p>・浦添、琉球王国の歴史の概要について発表をしながら確認する。</p> <p>・それぞれの課題をださせ、調べたいこと（課題）をしぼる。</p>  <p>・統一課題「うらそえようどれには英祖王の墓の隣になぜ尚寧王の墓があるのか。」について個人の仮説を立て、ワークシートにまとめる。</p> <p>・6班に分かれる。</p> <p>・班内で個々人の仮説を発表し、班仮説をつくる。</p>	<p>・前時までの学習内容を発問しながら確認する。</p> <p>・多くの課題の中から学習課題を1つにしぼる。</p> <p>学習課題「うらそえようどれには英祖王の墓の隣になぜ尚寧王の墓があるのか。」</p> <p>・どうしても調べたい課題については個人課題とし、統一課題と一緒に調べさせる。</p> <p>・個人の仮説（予想）を立てその根拠まで考えさせる。</p> <p>・班をつくらせる。</p> <p>・班内で一人ひとりの仮説（予想）と根拠を発表させ、班仮説をまとめさせる。</p>	<p>関心・意欲・態度 ・郷土の歴史に興味・関心を持ち、学習課題に対して、主体的な仮説を設定することができるか。</p> <p>思考・判断 ・話し合い活動を通して、課題に</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班仮説発表</li> <li>・自己、相互評価を記入する。(今日の授業をまとめる。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表者に班でまとめた仮説(予想)と根拠を発表させる。</li> <li>・自己、相互評価表を配布し記入させ今日の授業をまとめさせる。</li> </ul>	<p>対し多面的・多角的な考察ができたか。</p>
<p>第7時 「調べ方」・「まとめ方」</p>	<p>学習目標 「調べ方」・「まとめ方」についての方法や手順を知り、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「調べ方」、「まとめ方」についての説明を聞く。</li> <li>・班で「調べ方」、「まとめ方」をどのように行うか話し合う。(役割分担や計画を立てる)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「調べ方」、「まとめ方」の説明をする。(方法や手順など)</li> <li>・班で「調べ方」、「まとめ方」をどうするか話し合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・期間内で効率よく調べるにはどうすればよいか。</li> <li>・どういうふうにもまとめたら相手にわかりやすく伝えることができるかなどを考えさせる。</li> </ul> </li> <li>・今日の授業をまとめさせる。</li> <li>・次の時間から2時間の調べ学習に入ることを告げる。</li> </ul>	<p>知識・理解 ・「調べ方」、「まとめ方」の方法や手順が理解できたか。</p> <p>思考・判断 ・班内で話し合い、調べて・まとめる活動の学習計画が立てられたか。</p>
<p>第8・9時 調べ学習①・②</p>	<p>学習目標 課題を解決するために、必要な資料を収集・選択できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館、コンピュータ室を活用し書籍やインターネットで調べる。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べた内容を工夫してノートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館・コンピュータ室でのマナー指導。</li> <li>・IT指導員との連携を図り、またITをくみながら図書館・コンピュータ室で同時に調べ学習をさせる。</li> <li>・インターネットにはリンク集を作成しておく。</li> <li>・参考資料として書籍もある程度、準備しておく。</li> <li>・ノートに学習の記録をとるように指示する。</li> </ul>	<p>資料活用 ・書籍やインターネットから課題解決のために必要な資料を収集・選択できる。</p>
<p>第10時 まとめ①②</p>	<p>学習目標 追究し考察した結果を班で新聞やレポート、年表などにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の役割分担において調べた内容を班で話し合っ工夫してまとめる。</li> <li>・自己、相互評価を記入する。(今日の授業をまとめる。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決のために必要な情報を選択・分析、比較、考察し工夫してまとめるように指示する。その際、課題に対する仮説も検討させ、班の結論を出させる。</li> <li>・自己、相互評価表を配布し記入させ今日の授業をまとめさせる。</li> </ul>	<p>資料活用 思考・判断 ・課題に対して調べた結果や内容を新聞やレポート、年表などにまとめることができる。</p>

(結果)

① アンケートから

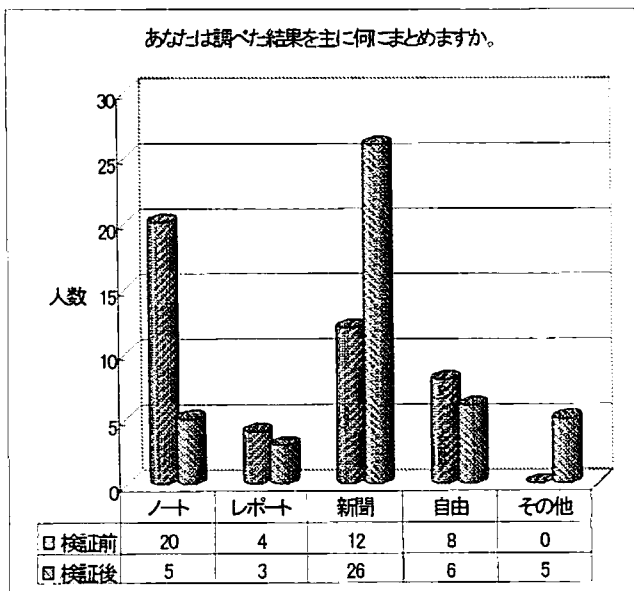
グラフ1 あなたは学習課題を調べるとき主に何から調べますか。



検証前後のアンケートから「あなたは学習課題を調べるとき主に何から調べますか。」という問いに対して、検証前は主に教科書や資料集から調べる生徒が多かった(概数 34人)が検証後は書籍で調べる生徒は約2倍にまたインターネットで調べる生徒が約3倍に増加した。(概数 55人)。

本单元において、教科書や資料集、書籍やインターネットなど多種多様な情報手段を活用し調べ学習を行うことができた。

グラフ2 あなたは調べた結果を主に何にまとめますか。



検証前後のアンケートから「あなたは調べた結果を主に何にまとめますか。」という問いに対して、検証前は主にノートにまとめる生徒が多かった(概数 20人)が検証後は新聞でまとめる生徒が約2倍(概数 12人から26人)に増えた。さらに、班によっては紙芝居やパソコンにまとめる(5人)など、「まとめ方」を工夫した班もあった。

本单元を通して、ノートにまとめるだけではなく、新聞や紙芝居・パソコンを使いまとめるなど「いろいろなものにまとめる力」が身に付いた。

(考察)

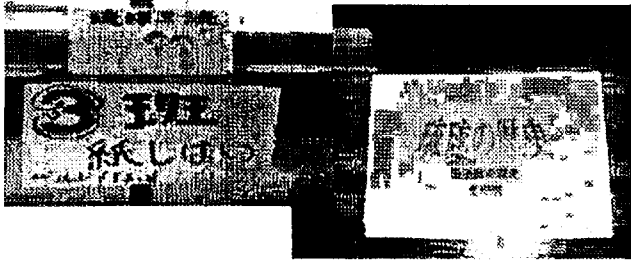
第5時までの学習を通して、郷土への興味・関心や学習意欲が高められたことから、第6時・学習課題づくりでは、生徒たちは課題に対して主体的な仮説が設定でき、班での話し合い活動においても他者の意見や仮説を聞くことで、多面的・多角的な考察をすることができた。

第7時～第11時・「調べる」・「まとめる」活動においては、「調べ方」や「まとめ方」の方法や手順を知ったことにより、図書館やコンピュータ室を多いに活用し、多種多様な情報や資料の収集ができ、工夫してまとめることができた。検証後のアンケートの結果からも図書館やインターネットの活用、新聞やその他(OHP・紙芝居・パワーポイントなど)にまとめるなどの数値がかなり増えていることから分かる。

「調べる」活動では図書館に「郷土コーナー」を設けたこと、パソコン(インターネット)には「郷土のリンク集」を作っていたことも情報・資料収集において多いに効果があったと思われる。また、「まとめる」活動においては「まとめ方」の工夫として、レポートや新聞に文章だけでなく、年表や絵・写真を入れるなどの工夫が見られた。さらに、浦添・琉球王国の歴史の概要や課題に対する答えを他者へ分かりやすく伝えるために、紙芝居やパワーポイントでまとめるなど創意工夫を生かした班もあった。

紙芝居

パワーポイント



以上のことから、課題の追究過程において、インターネットや書籍、聞き取り調査など多種多様な方法（調べ方）で情報収集を行えば、課題解に必要な情報を収集・選択し、レポートや新聞、さらに紙芝居やパソコンなどに工夫してまとめることができたと考える。

### (3) 作業仮説3の検証

課題について視点を明確にした相互交流の場を工夫することにより、生徒一人ひとりの考え方が広がり、課題に対する理解が深まるであろう。

相互交流の場として「発表会」・「討論会」の授業を実践した。「調べ方」・「まとめ方」と同様に歴史学習の導入段階であり、事前に「発表の仕方」や「討論会の持ち方」を説明し、授業実践を行なった。「発表会」では、班ごとに「調べ方」・「まとめ方」・「課題に対する答え」についての発表を行ない、「討論会」では学習課題に対し、各班への質疑や正反論を述べ合い、班の答えを導き出させ、最後にはうらおそいガイドから結論を話してもらった。

時間	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
第12時 発表会・討論会	<p>学習目標 「発表会」・「討論会」についての方法や手順を知り、準備ができる。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表の仕方、討論会の持ち方についての説明を聞く。</li> <li>各班において発表会や討論会での役割分担を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表の仕方についての説明をする。（発表の方法や手順、発表の時のルールやマナーなど）</li> <li>討論会の持ち方についての説明をする。</li> <li>発表会では発表者や質疑に対して誰が答えるかなどを決める。</li> <li>討論会では代表で意見を述べる人や質問に対し答える人などを決める。</li> </ul>	<p>知識・理解 ・「発表会」、「討論会」についての方法や手順が分かる。</p> <p>思考・判断 ・通材通所を考へ、「発表会」・「討論会」に向けての準備ができる。</p>
第13時 発表会	<p>学習目標 追究し考察した過程や結果をまとめ、班で役割分担をし発表を行なう。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1班～6班まで調べた内容、課題に対する答えを発表する。</li> <li>発表を聞いている生徒は発表内容質問事項をワークシートにまとめる。</li> <li>質疑応答</li> <li>今日の授業のまとめ</li> <li>次時の予告 討論会で活用するワークシートをノートに貼る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配布する。</li> <li>「調べ方」、「まとめ方」、「課題に対する答え」の順に発表させる。</li> <li>大きな声でわかりやすく発表するように指示する。</li> <li>ワークシートの活用を確認する。</li> <li>各班に2～3問、質問するように指示する。</li> <li>今日の授業をまとめる。</li> <li>次時の予告 討論会で活用するワークシートを配布しノートに貼らせる。</li> </ul>	<p>資料活用 ・班内で役割分担し、進者に分かりやすい表現方法で伝えることができる。</p>



## 5 本時の指導

### (1) 目標

学習課題に対し多面的・多角的に考察し、主体的に判断する力をつける。

### (2) 授業仮説



① 各班とも課題に対しまとめたことの相互交流を行なうことで、地域の歴史に対する見方や考え方を広げ、主体的に判断し結論を導くだろう。

### (3) 展開

《 第14時：討論会 》

### (4) 評価

- ① 目標をもって授業に取り組み、話し合い活動ではしっかりと考え、積極的に発言できたか。
- ② 各班の課題に対する発表を聞くことで、学習課題に対し見方や考え方が広がったか。
- ③ 相互交流を通して、学習課題に対する理解もいっそう深まり、主体的に判断し結論がだせたか。

時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
第14時 .. 討 論 会 《 本 時 》	学習目標 学習課題に対し多面的・多角的に考察し、主体的に判断する力をつける。		
	・前時の学習内容と今日の授業の流れを確認する。(3分)	・前時までの学習の内容を受け、今日の授業では学習課題に対する討論会を行うことを告げる。(討論会の流れを確認する)	関心・意欲・態度 ・各班の発表をしっかりと聞いていたか。
	・各班とも学習課題に対する答えを発表する。(6分) 学習課題 「浦添ようどれには英祖王の墓の隣になぜ尚寧王の墓があるのか。」	・班の代表者に発表してもらう。 	思考・判断 ・話し合い活動では整理立てて考え、意欲的に発言できたか。
	・作戦タイム①(7分) 各班とも他の班の答えに対して、質疑を考える。また、正論・反論もあわせて考える。	・他の班の答えに対して厳しく批判しないように指示する。  ・挙手した班から発表させる。 	関心・意欲・態度 ・班員が協力し合い討論会に参加できたか。 ・相手の立場に立って別の意見や考えを述べたか。 思考・判断 ・学習課題に対する見方や考え方が広がったか。
	・作戦タイム②(7分) 討論会を終えて、もう一度、各班で課題に対する答えを考えさせる(話し合わせる)。	・課題に対する答えは各班でこれまで調べた結果(同じ答え)でもよいし、討論会を終え、答えが変わってもよいことを伝える。	思考・判断 ・話し合い活動では整理立てて考え、意欲的に発言できたか。 ・学習課題に対する理解もいっそう深まり、主体的に判断し答え(グループの)が導けたか。
・各班での話し合いの結果、最終的に出した課題に対する考えを発表する。(6分)	・班の代表者に発表してもらう。	関心・意欲・態度 ・各班の発表をしっかりと聞いていたか。	
・うらおせいガイドから課題に対する答えを述べてもらう。(3分)	・歴史的な事柄なので次の学習へつながるようにまとめてもらう。	関心・意欲・態度 ・歴史カイトの話のしっかりと聞いていたか。	



・自己、相互評価を記入する。(5分)

・今日の授業の感想を発表する。(3分)

・今日の授業をまとめる。

・自己、相互評価表を記入させる。

・2～3人程度、発表させる。

・今日の授業のまとめをする。

批判・資活

・自己を振り返ることができたか。  
・他者を評価することができたか。

関心・意欲・態度

・今日の授業を振り返り感想が言えたか。

第15時授業のまとめ

学習目標 身近な地域の歴史学習をまとめる。

・これまでの学習を振り返る。

・事後アンケートを記入する。

・身近な地域の学習のまとめをする。

・事後アンケートを配布し記入させる。

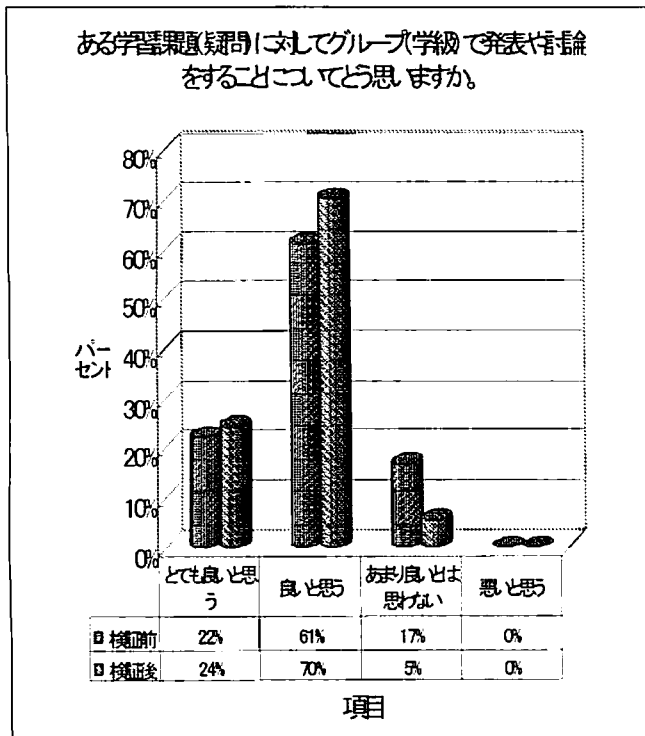
関心・意欲・態度  
知識・理解

・身近な地域の歴史学習を通して、郷土への興味・関心を高め、歴史の学び方を身に付けることができたか。

(結果)

① アンケートから

グラフ1 ある学習課題(疑問)に対してグループ(学級)で発表や討論をすることについてどう思いますか。



検証前後のアンケートから「学習課題(質問)に対してグループ(学級)で発表や討論をすることについてどう思いますか。」という問いに対し、「とても良いと思う」・「良いと思う」と考えている生徒が検証前は約83%で検証後は約95%と増えた。また、表(1)の生徒たちの感想からもY君「知識を深めることができるから」、Mさん「他のグループの答えも聞けて、考え方が広がる」など、「発表会」や「討論会」では知識を増やすだけでなく・見方や考え方を広げ、課題に対する理解も深まったことが見受けられる。(下記生徒の感想より)



討論会の様子

表 (1)

検証前後アンケート 「発表会」・「討論会」が「とても良いと思う」・「良いと思う」理由

S君	討論をすることによって分からなかったことも分かるようになるしとても良い。
Nさん	発表会をすることで他のグループからいろいろな情報が入るから。
Y君	お互いの考えが分かり合え、知識を深めることができるから。
Kさん	自分たちの意見を発展させ、また新しい意見が出て、考え方が広がるから。
T君	お互いに発表し合って、考えを深めていけるから。
Mさん	グループが協力して学習していく時に、他のグループの答えも聞けて、考え方が広がるし、意見を言い合う中で違った考え方も出てくるので。

(考察)

「相互交流の場の工夫」として、「発表会」においては「視点を明確にした発表」を行なうことで、課題に対する答えが1つではないことを知り、いろいろなものの見方や考え方があることに気付いた。「討論会」においては作戦タイム①②・討論タイムなど討論の流れの工夫もあるが、特に工夫したのが「うらおそいガイドの活用」である。生徒たちは地域の歴史の専門家へ自分たちで調べた結果の報告を行うため、活発な討論会を行い、また、「うらおそいガイド」から結論を述べてもらったことで、課題に対する真理が追究でき、成就感を味わいながら、自信を持つことができた。

「発表会」や「討論会」通して、各班とも意見や考えをしっかりと見え、質問や正反論に対しても筋道立てて答えることができた。また、各班との意見交流やうらおそいガイドの結論を聞き、生徒一人ひとりのものの見方や考え方を広げ、課題に対する理解もいっそう深めることができた。

IX 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 外国人との交流、身近な地域の歴史を取り上

げ、講話や現地学習など体験的な学習を行なうことで、学習意欲を喚起させ、郷土への興味・関心が高められた。

(2) インターネットや書籍、聞き取り調査など多種多様な情報手段の活用を図ることにより、必要な情報を取捨選択し、レポートや新聞、さらに発展させ紙芝居やパソコンなどに工夫してまとめることができた。

(3) 「発表会」や「討論会」など、相互交流の場を工夫することにより、生徒一人ひとりの見方や考え方が広がった。また、学習課題に対する理解も深められた。

(4) 作業的・問題解決的な学習を展開することで、基礎的な歴史学習の学び方を身に付けることができた。

2 今後の課題

(1) 地域学習を取り入れた3分野(地理・歴史・公民的分野)の年間計画の作成。

(2) 効果的な図書館・コンピュータ教室の活用。

(3) 地域の施設・設備の利用、地域人材バンクの活用。

【おわりに】

「生徒たちに郷土の歴史に興味・関心を持たせ、郷土への誇りや郷土愛を育てたい!」「私自身も郷土の歴史を勉強したい!」と常日頃から考えており、この思いが本研究を進めるきっかけとなりました。本研究では「郷土への興味・関心を高め、歴史の学び方を身に付ける学習指導の工夫」をテーマに進めていくことになり、この目的を達成するために下記の実践を行ないました。

第1段階では外国人との交流、地域の英雄のVTRを見せながら、地域の歴史の概要を理解させ、うらおそいガイドを活用した現地学習を取り入れることで多くの生徒たちから「沖縄の歴史や文化について調べてみたい!」「沖縄の王様のことをもっと知りたい!」など「調べたい」・「もっと知りたい」という思いを起こさせ、生徒たちは学習意欲を高めながら、郷土への興味・関心を持つことができた。

第2段階として学習課題を解決する場面ではグループを作り、聞き取り調査や図書館・インターネットを利用しての調べ学習を行ない、新聞やレポート形式だけではなく紙芝居やパワーポイントに工夫してまとめるなど、生徒たちの創意工夫が多く見られました。

第3段階としての発表会・討論会においては、各班とも追究過程や調べた結果を分かりやすく伝え、相互交流を通して、見方や考え方を広げ、課題への理解も深めることができました。

3段階での授業実践は生徒たちや私にとって初めての経験でしたので、戸惑いの中、模索しながら授業は進んでいきました。しかし、様々な学習形態や展開のなか、主体的に課題を追究していくことで生徒たちは意欲的に学習に取り組み、本研究の目指す生徒像である「郷土愛をもち、歴史の学習に対し進んで課題を追究する生徒」を達成することができ、私が考えている以上の成果を上げました。改めて、生徒たちの可能性（潜在能力）を知り、2学期、現場に戻ったら本研究を通して学んだことをさらに発展させ、今後の授業実践に生かしていきたいと考えています。

最後になりましたが、本研究所の比嘉所長、當間係長、山里主事にはいつも温かいご指導・ご助言をいただき心から感謝申し上げます。また、多くの情報や資料を提供してくれた武元さん、岸本さん、必要な事務用品を素早く準備してくれた饒平名さん、コンピュータが不慣れな私に分かりやすくコンピュータの操作を教えてくれたIT指導員、そして所員の皆さんには大変お世話になりました。

更に、本研究所での研修の機会を与えて下さった仲西中学校古堅校長、大城・仲本両教頭には深く感謝申し上げます。また仲西中学校の職員の皆さんの励ましもあり、6ヶ月の長期研修にも専念することができました。ありがとうございます。

そして、指導助言を下された、学校教育課の金城指導主事、浦添市教育委員会の先生方には厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

#### 【主な引用・参考文献】

- 「中学校学習指導要領(平成10年12月)解説—社会編—」  
文部省 2002
- 「中学校教育課程編成要領」  
沖縄県教育委員会 2000
- 盛本 勇  
「研究報告収録 第26号 『歴史的事象に対し自ら課題をもち追究する生徒の育成』」  
浦添市立教育研究所 2001
- 小関洋治  
「3 身近な地域の歴史学習」  
明治図書 1990
- 北夫倫彦・祇園全禄編  
観点別学習状況の新評価基準  
図書文化社 2002
- 末吉良治 金城 聡 玉寄義治  
「研究紀要 『学習課題を自ら追究する授業の展開』」  
琉球大学教育学部附属中学校 1991
- 澁澤文隆・佐伯真人・大杉昭英編著  
改訂 中学校学習指導要領の展開 社会科編  
明治図書 2002
- 加藤幸次・奈須正裕 編集  
No.3 意欲を高める授業—実践の工夫と技術—  
教育開発研究所 1997
- 教育実践講座 「学び方の学習」  
教材フォーラム8号 1995 2月
- 山口耕作  
学び方を学ぶ社会科学習の工夫と改善  
—「身近な地域の特色」の教材化を通して—  
佐賀県教育センター 2000
- 社会科教材研究シリーズ第104号 街道の歴史を「発見」：発表の意欲を高める教師の支援—第1学年小単元「地域の歴史を探ろう」—  
栃木教育研究所 2002
- 大森照夫・佐島群巳・次山信夫・藤岡信勝・谷川彰英編  
「新訂社会科教育指導用語辞典」  
教育出版 1999